

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成28年度採択分）  
「アジア太平洋地域における雑草研究の電子媒体による発信の取組」  
（課題番号：16HP2012）

学術団体名：日本雑草学会

学術刊行物の名称：Weed Biology and Management

事業期間：平成28年度～平成32年度

## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

Weed Biology and Management(WBM)は、日本雑草学会が刊行している国際学術英文誌であり、雑草、雑草防除、雑草利用を扱う原著論文と総説などを掲載する。本誌は、アジア・オセアニア諸国と米国を含むアジア太平洋地域の多様な自然環境と農業環境における雑草科学の基礎・応用研究の成果を発信することを目的とする。雑草科学の国際誌としては、Weed Science(米国)とWeed Research(欧州)があるが、本誌はそれらに続く世界での主要3番目の国際誌となることを目指している。

これまでは、研究成果公開促進費(学術定期刊行物)を活用しながら、冊子体とオンラインジャーナルを並行してWILEY社より刊行してきた(平成28年度からはオンラインジャーナルのみ)。平成27年度からは、投稿料の無料化により投稿数および会員数の増加を図るとともに査読期間の短縮に努め、現在では優れた論文へオープンアクセス化支援事業を行っている。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- ①投稿数と会員数の増加:現状の投稿数は年間100報程度、会員数約617名のところを、平成27年度に投稿料を無料化したことにより5年後には年間投稿数150~200報、会員数1,000人以上を目指す。
- ②査読期間の短縮:現状の査読期間152~430日のところを、海外審査員の増強等による審査体制の改善により5年後には投稿から受理まで150日以内を目指す。
- ③オープンアクセス支援:現在、著者負担によるオープンアクセス選択が可能。オープンアクセス化の支援事業によってオープンアクセス論文を増やす。
- ④インパクトファクター(IF)の向上:最近のIFは0.5~0.7で推移。上記の取り組みにより1.0以上を目指す。

## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

- ①投稿数と会員数の増加:年間投稿数は、100報程度で安定している。平成30年度は、10月29日時点で新規投稿数は80報となっている。平成30年10月時点での会員数は610名である。
- ②査読期間の短縮:直近の査読期間は最短72日、最長272日(平均166日)と改善傾向にある。これには、審査基準の明確化と、海外編集委員の刷新によるところが大きいと考えている。
- ③オープンアクセス支援:昨年度から優秀と認められた掲載論文を学会支援事業として、毎年1報をオープンアクセス化してきた。現時点で2報がこの事業によってオープンアクセスとなっている。
- ④IFの向上2018年に公表された2017年のWBMのIFは、0.778(2年)、1.029(5年)と最高値であった。

### ・今後の計画

オープンアクセス支援事業の対象論文の拡大:現在のオープンアクセス化支援の継続実施に加えて、優れた研究者等に対して総説の執筆を積極的に依頼し、IF向上に有利な第1号に集中的に掲載する取り組みを進める。総説はWBMのHP上に関連テーマのバーチャルイシューを設定し、被引用回数向上の工夫をする。

今後のAPWSS会議においても引き続きAPWSSおよび各国の雑草関係学会との連携を確認、強化する。

その他、国際発信力達成目標を総合的に検証し、新たな課題を抽出して次の取り組みにつなげる。

### ・補助事業終了後の計画

- 1) 学会の財務状況を考慮しつつ、WBM全掲載論文をオープンアクセスとするビジネスモデルの構築
- 2) 他学会との連携、出版社との一括契約や関係学会員による相互購読システムの実現、共同広報活動